

令和7年3月31日現在

1 施設名称

特別養護老人ホーム 偕生園
(開設 昭和56年1月5日)

2 所在地

浜田市黒川町196番地1

3 事業計画の達成状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	準職員及び非常勤職員の確保
取組の方向性①	浜田圏域の就職セミナー等人材確保に係るイベント情報を把握し、イベントに積極的に参加する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 「福祉職場相談会」への申し込みを行い、積極的に、来場者へ事業説明等実施し、人材確保に繋げる。(変更) 施設見学の依頼があった際には、依頼者の希望に沿った施設見学を実施していく。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職場相談会への申込みを4月、5月、6月、12月に行い、6月の相談会に当選し参加したが、来場者は0名であった。 ハローワーク主催の介護就職デイに参加し5名の面談者があった。1名が施設見学を希望し、その1名を準職員として令和7年4月から採用に繋げることができた。 広島トリニティカレッジ医療福祉専門学校より、地域職希望者の施設見学の依頼があり対応し、地域職受験に繋げた。
取組の方向性②	介護職員初任者研修の実習者を積極的に受け入れる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 実習機関からの実習依頼を積極的に受け入れ、職員の雇用に結びつける。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 介護職員初任者研修実施機関である、(株)ホームケア一島根より、研修講師と施設実習の依頼を受けていたが、参加希望者が募集定員を下回ったため、研修が中止となり、施設実習の受け入れから雇用に結びつけることは出来なかった。
取組の方向性③	施設実習や職場体験で来園された方を対象に情報発信を行い、繋がりを築き、新たな人材を発掘する。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の高等学校や福祉系高等学校へ求人票と共にパンフレット等を持参し、採用についての情報提供を行う。(変更) 介護初任者研修実施機関と連携を持ち、求人情報等の提供を行い、

	就職希望者の実習に繋げる。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ハローワークへ令和7年度4月採用の高校生求人を行った。また、浜田高校、浜田商業、浜田水産、明誠、邇摩高校にパンフレット・求人票を送付し準職員採用に関し情報提供を行ったが応募は無かった。 介護職員初任者研修実施機関である、(株)ホームケアー島根と県内での研修開催状況や受講者の就職状況、圏域内の施設の評判などの情報共有を行った。

実施施策	準職員等の退職後の再雇用
取組の方向性①	準職員を定年退職したあとも非常勤職員として継続して雇用するため、業務内容や勤務時間等の選択肢を増やすことにより、慣れた職員が長く働くことができる働き方を提供する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 定年を間近に控えた準職員を対象に個別面談を行い、非常勤介護員、夜間介護員、介護助手の雇用条件に係る説明をし、就労希望がある際は、雇用に関係する。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 準職員・非常勤職員面接において、65歳定年後の働き方として、非常勤職員や介護助手にて引き続き偕生園で勤務できることを説明し不足する介護職員の雇用に関係するよう努めた。 非常勤職員の定年が令和7年度より75歳となることから令和6年度中に70歳を迎えた警備員、用務員に継続の意向を確認したが希望者がいなかったため継続雇用に関係することはできなかった。
取組の方向性②	再雇用できない場合は、ユニット外活動の運営ボランティア等、引き続き偕生園に関わってもらえるような仕組みを作る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 退職者をはじめ、地域へボランティアを募り、寄りあい喫茶や余暇活動への協力を募る。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 当園の退職者と地域の方にボランティア活動を依頼し、習字クラブと生け花クラブを再開することができた。 寄りあい喫茶については、規模を縮小し、職員のみで実施できるよう企画したことから、ボランティアの募集は行わなかった。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	モチベーションの向上
取組の方向性①	目標や方向性を明確にした複数の専門部会を設置し、ユニットを超えた職員間で継続的に専門性を高める取組を進める。(新規)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 園の抱えている課題の解決や職員の意欲の向上に関係する部会を構築

		し、職員のモチベーション向上に繋げる。(新規)
評	価	・記録、ICT、排泄ケア、介護技術に関する課題解決を目的にワーキングチームの立ち上げを考えていたが、既存のスキルアップクラブを4つのチーム（記録、ICT、排泄、介護技術）に再編し課題解決に取り組み成果を上げることでチームと個々人のモチベーションを向上することができた。
取組の方向性②		専門部会員とユニット職員双方のモチベーションの向上が図れるよう、各部会での取り組みをユニットへフィードバックし実践する。(変更)
行 動 計 画		・ 毎月のユニット会議において、専門部会の議事内容の報告を行い、専門部会員以外の職員も活動内容を把握し、専門部会の活動に協力することを継続する。(変更)
評	価	・ クラブ活動の内容を毎月のユニット会議で報告し、クラブメンバー以外も活動内容を把握できるよう情報共有に努めた。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 策	働きやすい職場風土の構築
取組の方向性①	管理職やリーダーが、偕生園行動指針の「あいさつ」「笑顔」「学び」のキーワードを意識した行動を心掛けるとともに、管理職が定期的な個別面談を行いユニットのメンバーが良好な人間関係を構築できるよう環境を整える。
行 動 計 画	・ 管理職が、6月と2月に定期面談を行い、職員の身体・メンタル面の把握と職員同士がお互いを承認する（否定や批判をしない）ことの重要性を伝え、働きやすい職場環境等の改善に繋げる。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月と2月に準職員・非常勤職員面接を実施し、職員個々の仕事への思いや困りごとを確認の上、必要に応じてアドバイスや提案を行い、業務の効率化や勤務調整により職場環境で改善できる内容については速やかに改善した。 ・ 7月・11月に正規職員に面接を実施し、職員個々の仕事への思いや困りごとを確認すると同時に必要に応じてアドバイスや提案を行い、業務の効率化に向け勤務調整し、職場環境で改善できる内容については速やかに改善した。 ・ デイサービスの準職員・非常勤職員に6月、2月の定期面談に加え11月にも面接を実施し、業務上の課題を聞き改善策等の検討を行い業務の効率化や職場環境面で改善を図った。
取組の方向性②	職員の親睦会等をとおして良好な人間関係を構築できるよう、多様なイベント等を実施する。

行 動 計 画	・ 職員参加型のイベントを企画し、職員の親睦やイベント等の情報を掲示し、職員のリフレッシュを図る。(変更)
評 価	・ 親睦会主催のイベントは計画できなかったが、12月のそば打ちに併せて、生活支援課長ほか有志により臨時のランチミーティングを実施した。普段接することの少ない職員同士でコミュニケーションを図ることができた。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実 施 施 策	業務の効率化
取組の方向性①	各ユニットに偏りなく眠り SCAN を配備するため、20台を段階的に導入し、夜間の適切なタイミングでの排泄ケアや訪室回数の削減により、夜間時の業務負担の軽減を図る。また、蓄積されたデータから、入居者の生活リズムや体調変化を把握し、きめ細やかな介護の実践に繋げる。(変更)
行 動 計 画	・ 眠り SCAN から得られる睡眠データを分析し、分析したデータをケアプランに活かし、入居者の生活改善に繋げる。(変更) ・ 眠り SCAN 等 ICT 機器の活用により、業務負担軽減や時間外業務の削減など生産性の向上を図る。(変更)
評 価	・ PB-Method を活用して、入居者の適切な巡視及び業務効率化を目指し眠り SCAN の活用に取り組み、夜間帯の業務負担の軽減や入居者の生活リズムを把握し、入居者個々に併せた個別支援に繋げることができた。
取組の方向性②	情報システムの課題整理及び記録のあり方について、園内で協議する場を設ける。
行 動 計 画	・ 記録に関し検討する部会を設け、情報システムの課題整理と記録のあり方について検討を行う。(変更)
評 価	・ スキルアップクラブの中に『記録チーム』を設け、記録に関する課題を検討し、記録ガイドライン、介護記録マニュアル、介護記録入力方法マニュアルの作成を行い偕生園における記録のあり方について示すことができた。

実 施 施 策	腰痛予防対策の推進
取組の方向性①	健康づくりやセルフケアの大切さを浸透させる為、安全衛生委員会で腰痛予防についての情報を発信し、アプローチする。(変更)
行 動 計 画	・ 腰痛発生のメカニズムや腰痛予防方法等について、定期的に情報提供を行い腰痛予防意識の向上を図る。(新規)

		<ul style="list-style-type: none"> YouTube 等動画を活用し、腰痛予防に関する学習機会を設ける。(新規)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> ジョブメドレーアカデミー（オンライン学習）の腰痛予防に関する講義科目を紹介し、腰痛予防に関する知識と技術の向上に努めた。 ICT チームメンバーで、介護ロボットフォーラムに参加し、腰痛予防を期待できる機器も含めた福祉用具を学習する機会を設けた。
取組の方向性②		中腰姿勢等での介助を減らすため、介助方法に見合った福祉用具の導入を検討するとともに、専門部会で定期的に介助方法の見直しを行う。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 介助方法に見合った福祉用具や活用できるアイテムを模索し導入を検討する。(変更)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 12月に「介護ロボット地域フォーラム島根」に参加し、移乗アシストロボットやアシストスーツの体験及び情報収集を行った。
取組の方向性③		介護技術のスキルアップのため、外部研修への派遣や園内研修を実施する。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 施設全体の介護技術を向上する為、外部研修へ複数名派遣し、園内で復命研修を実施する。(変更)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 介護技術関連の外部研修へ派遣することはできなかったが、スキルアップクラブ（介護技術チーム）にて、メーカーの協力を得て、ポジショニングと排泄について研修会を実施した。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実 施 策	食事サービスの質の向上
取組の方向性①	外注食と、施設調理の一部試行を併用しながら食事提供体制を検討する。(新規)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下調整食を昼食時に提供できるよう検討を行う。(新規) 入居者の希望に沿った食事となるよう、ミールラウンドを行う。また、嗜好調査を行い、入居者のニーズを把握する。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下食の施設調理を再開できるよう進め方や調理方法等を厨房内にて検討し、試作や試行を経て、令和7年1月14日から昼食・夕食の嚥下食施設調理を再開した。 昼食時にミールラウンドを行い、入居者からの要望や意見を厨房内で共有した。改善が必要なものは改善し、より良い食事提供ができるよう努めた。 ミールラウンドにて、入居者からの意向を把握できていることから意向調査は実施しなかった。

実 施 策	専門性を発揮したケアの実践
取組の方向性①	職員個々の専門性を高めるため、効果的な専門部会を設置する。
行 動 計 画	・ ワーキングチームにて、職員の専門性とサービスの質の向上、共通認識をもった業務遂行について検討する。(新規)
評 価	・ 記録、ICT、排泄ケア、介護技術に関する課題解決を目的にワーキングチームの立ち上げを考えていたが、既存のスキルアップクラブを4つのチーム(記録、ICT、排泄、介護技術)に再編し課題解決に取り組んだ。チームごとに目標を立てて取り組み、各チームとも概ね目標を達成することが出来た。
取組の方向性②	ユニットリーダーを中心に、介護員が主体的に入居者の状態像に応じた住環境を整える。(変更)
行 動 計 画	・ 入居者や家族等から情報を収集し、入居者の好みに合わせた設えを行い、安心して過ごすことのできる居室空間の整備を行う。(変更)
評 価	・ 新規入居時に設えの説明を行い、自宅からの家具等の持ち込みを依頼した。件数は少ないが、家族の協力を得て自宅に近い居室環境づくりを行うことが出来た。新規入居者以外の居室については、面会のある家族へ説明を行ったが家具等の持ち込みに繋げることは出来なかった。

実 施 策	ユニット外活動の充実
取組の方向性①	施設内デイサービスを計画実施できるよう仕組みを構築し、外部ボランティアの協力を得て生け花、習字、カラオケ等のユニット外活動を再開する。(変更)
行 動 計 画	・ 入居者の意向に沿った楽しみを提供できるよう、ボランティア等を活用し定期的に施設内デイサービスを実施する。(変更)
評 価	・ 毎月1回施設内デイサービスを実施した。毎回多くの入居者の参加がありユニットから離れ、他ユニットの入居者と接する機会を持っていただくことが出来た。職員で対応することができるメニューであったことからボランティアの活用は行わなかった。
取組の方向性②	職員の趣味や特技を活かしながら、職員の参加を促す。
行 動 計 画	・ 職員の特技や趣味を施設内デイサービスの活動メニューとして希望を募り、活動を実施する。(変更)
評 価	・ 施設内デイサービスのメニューをドライブや食事会、レクリエーションとしたため、職員の趣味や特技等の発表を募り実施することはしなかった。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	権利擁護意識の浸透
取組の方向性①	職員が自らの行動、言動を振り返るためのチェックシートを作成・実施し、権利擁護意識の向上を図る。(変更)
行 動 計 画	・ 権利擁護チェックシートを年度前半に作成し、作成したチェックシートにてセルフチェックを行う。セルフチェック結果を基に職員個々に改善目標を設定し取組を行う。(新規)
評 価	・ 東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成の『虐待の芽チェックリスト』を活用し、介護員にセルフチェックを実施した。セルフチェックを基に自らの行動等を振り返り、権利擁護を意識し業務を行うよう働きかけを行った。
取組の方向性②	権利擁護意識を浸透するため、継続して外部講師を招き、職員自身の振る舞いを振り返る。(変更)
行 動 計 画	・ 権利擁護意識を向上できるよう、園内研修に外部講師を招き研修を実施する。(変更)
評 価	・ 『高齢者虐待防止・権利擁護について』1月に外部講師として社会福祉士の阪田健嗣氏に依頼し、園内研修を実施した。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実 施 策	地域における公益的な取組の継続
取組の方向性①	寄りあい喫茶かいせいの実施、福祉講演会の開催により、住民に愛される地域資源としての偕生園を確立する。
行 動 計 画	・ 「寄りあい喫茶かいせい」を再開できるよう準備し、実施する。(変更) ・ 寄り合い処を活用し、地域の方々を対象とした福祉講演会(福祉フェス)を開催する。(変更)
評 価	・ 「寄り合い喫茶かいせい」を11月に実施した。年2回を予定していたが、企画が遅れたため年1回の開催となった。近隣自治会へ案内を行ったが、広報不足のためか参加者は近隣の方1名であった。 ・ 「福祉講演会」を、11月に5年ぶりに開催した。2名の外部講師に講演をいただき、参加者からは勉強になった、楽しかったとの声が聞かれたが広報不足のため、参加者は少数であった。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	介護老人福祉施設事業の収入確保
-------	-----------------

取組の方向性①	退所に伴う空床期間の短縮に向けた取組を継続する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 入居検討委員会にて選定した上位候補者のうち3名程度の入居希望者及び身体状況に関する事前調査を行い、空床が発生した際、速やかな入居に繋げる。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 上位候補者の内3名程度の入居希望者及び身体状況に関する事前調査を行い空床が発生後、7日以内の新入居に繋げていたが、年度後半に入院、転院や死去に伴う退所者が続き、事前調査に時間がかかり、利用率を大きく下げる結果となった。
取組の方向性②	医療依存度の高い申込み者の受け入れについて検討する。(新規)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に見直した「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」に従い受け入れを行う。(新規) ガイドラインの見直しを継続的に行う。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアが必要な新規入居希望者については、医療的ケアガイドラインに従い検討を行った。令和6年度においては、医療的ケアを必要とする方の入居はなかった。 医療的ケアの該当項目(骨粗鬆症に関する注射)について検討を行い、医療的ケアガイドラインへ新たな項目を追加した。

実施施策	居宅サービス事業の方向性の検討
取組の方向性①	通所介護事業所は、他圏域事業所の情報収集を行い、他事業所と競合しない特色ある事業所作りを多職種で検討し、利用率の維持向上に繋げる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 利用率の向上に繋がるよう、居宅介護支援事業所アンケート、利用キャンセル分析を継続して実施する。(変更) 18名の定員が満員となるように居宅介護支援事業所等へ空き情報の提供を行う。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のキャンセル理由の分析を行い、キャンセル理由の傾向把握と対策を立てることができた。 担当者会議等で居宅介護支援専門員へ情報提供し、18名の定員が満員となるよう努めた。
取組の方向性②	居宅介護支援事業所は、介護保険制度の要となる事業であると共に、次世代を担う介護支援専門員の育成を念頭に置き、特定事業所加算を算定できるような人員配置も含め、今後の事業展開について検討し、方向性を決定する。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度介護報酬改定において示された特定事業所加算の算定要件を踏まえ、今後の事業展開について事務局と協議する。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定事業所加算の検討をする以前に、介護支援専門員 2 名の担当件数が目標に届いていないことから、担当件数を増やすよう、地域包括支援センターや医療機関との連携に努めたが、地域包括支援センターや医療機関からの紹介が少なかったことに加え、新規受け入れをするも、入院等により担当件数を増やすことができなかった。
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実 施 策	施設内の居住環境の改善
取組の方向性①	湿度が上がらない居室については加湿機能付きエアコン設置も含め今後、状況をみながら検討する。(新規)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季に、居室及びリビングの湿度を測定し、状況に見合った加湿器等の購入を検討する。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季の湿度が低いことから、広範囲で使用でき、且つ、給水等安易にできる加湿器をユニットに 1 台ずつ購入した。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実 施 策	チームケアの推進
取組の方向性①	組織内の連携を強化する為、報告・連絡・相談の重要性和効率的なやり方を学ぶ機会を設け、チーム力を向上する。(新規)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の役割や業務内容をまとめた一覧表を作成し、多職種理解を深める。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職種の役割を理解し、他職種協働に繋がるよう、多職種の役割や業務内容をまとめた「役割ブック」を作成し、全職員へ配布した。